

大阪医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科における口腔癌の治療と成績

東野 正明、鈴木 倫雄、寺田 哲也、河田 了
(大阪医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科)

【はじめに】

口腔癌は、頭頸部悪性腫瘍の約 3 割を占める。その中でも最も舌癌が多く、舌痛が主訴となることが多いため、初めは口内炎として、耳鼻咽喉科をはじめ、歯科、内科などを受診されることも多い。口腔癌は構音機能や摂食嚥下機能に大きく影響し、また頸部リンパ節転移をきたしやすい特徴があり、当院では、歯科口腔外科・形成外科・放射線治療科・化学療法センター・リハビリテーション科などと協力して、集学的治療を行っている。

【対象と方法】

当科で治療した口腔癌症例 293 例について検討した。術前診断には口腔内の視診、CT および MRI を施行し、局所の早期癌では局所切除を施行し、局所の進行癌では適切に切除した上で、積極的に再建術を施行している。術前の頸部リンパ節転移診断では、当科での超音波エコーによる診断基準に加え、エコーガイド下に穿刺吸引細胞診を施行し、転移陽性症例には頸部郭清術を行っている。また T2 以上 NO 症例においても予防的に上頸部郭清術を施行し、その際に術中迅速病理診断も用いることで、さらに正確な転移リンパ節診断を行い、転移陽性であれば、全頸部郭清術を施行している。

【結果】

男性が 177 例、女性が 116 例、中央値 65 才（16－92 才）であった。亜部位は、舌が最も多く 171 例であり、次いで下歯肉が 44 例、口腔底が 33 例、頬粘膜が 18 例、硬口蓋が 13 例、上歯肉が 11 例、口唇が 3 例であった。組織型は扁平上皮癌 281 例、基底細胞癌 3 例、疣状癌 2 例、肉腫 2 例、腺様嚢胞癌 1 例、粘表皮癌 1 例、悪性リンパ腫 1 例、上皮筋上皮癌 1 例であった。口腔癌全体の 5 年生存率は 72.9%であった。Stage 別の 5 年生存率は、Stage I が 90.1%、Stage II が 80.8%、Stage III が 72.3%、Stage IV が 49.1%であった。T 分類別では T1 が 90.1%、T2 が 76.1%、T3 が 70.1%、T4 が 46.5%、N 分類別では NO が 81.0%、N1 が 58.4%、N2 が 44.4%であった。

【まとめ】

当科で治療を行った口腔癌症例を報告した。今後もさらなる根治性の向上と機能温存の共存を目指して治療を行っていききたい。